

ひとり暮らし支援策を問う

(2) 近所ともだち・仲間づくり支援

年を取ってからは、近所のもだちづきあいが何より大切。高齢者が集まってゲームや趣味で遊ぶことが、孤立を減らし、認知症を予防し、認知症の悪化を防ぐ。

また、ひとり暮らしでは食べることがおそろかになりがち。区では1食350円を補助して、配食サービスを行っているが、最近は多くの民間業者が高齢者向け宅配に参入する一方、社会福祉協議会の宅配もある。配食サービスを検証し、自主的会食会を支援することを含め、ひとり暮らし高齢者への食事サービスを充実させたらどうか。

区：個別訪問(見守りステーションによる)、ランチ事業の他、シニア健康教室を始める。今後は配食サービス業者などを活用し気軽な会食会を開催するなど仲間づくりの支援を図る。



すべての避難所で訓練が実施されます

モデル訓練日程(すべて9時～12時)

9月9日(日) 尾久宮前小(尾久西部)

9月15日(土) 五峡小(町屋)

9月23日(日) 諏訪台中(日暮里)

10月13日(土) 二峡小(荒川)

10月14日(日) 原中(尾久東部)

11月25日(日) 汐入小(南千住)



区内の指定された避難所37箇所(小中学校など)で避難所生活を想定した訓練が行われる。該当する避難所に指定された各町会の合意ができ次第、実施する。

区民の積極的な参加をお願いしたい。

女性防災リーダーの育成を

東日本大震災では、避難所での、女性・乳幼児・障がい者・アレルギー児などの様々な困難が大きな問題となった。その教訓を生かすためには女性リーダーの育成が求められている。荒川区ではいつ始まるのだろう。

食物アレルギーへの正しい理解を広めよう

私が3月の予算委員会で求めた、小学校での事故(1月30日)の検証報告書がでた。区役所内部だけの検証に終わったのが、残念。一定の改善は行われたが、作業手順や調理員の意識改革・教員の研修強化・こどもへの教育など、課題は多い。子どもの命にかかわることである。事故防止のためには、子どもにも、おとなにも、アレルギーについての正しい理解を広めることが必要であろう。「学校におけるアレルギー対策委員会」は継続されるのでさらに改善をすすめてほしい。



街をきれいにしたい+緑を増やしたい ～街路樹や植え込みの美化活動を

先日、「三河島駅前が雑然としている、街の顔なのにいかがなものか」という声をいただいた。駅前南地区の再開発と合わせ、駅前も改善される予定なのだが、工事が始まるのは、1年半後。

そこで、区と相談し、駅前の既設のプランターに花を植えることとした。区民の取り組みの一環である。

「わが街をきれいにしたい」という住民の願いの受け皿作りを、区も、もっと考えてはどうだろうか。街なか花壇も65箇所に広まり、好評を得ている。道路の街路樹や植え込みの美化にも区民参加を呼びかけたらどうだろうか。皆さんの近所にも、「あそこ、もっときれいにならないかな、木が植えられないかな」という場所はありますか。

夏涼しい!
火災延焼防止に役立つ!

